



たまだれ
No.61

玉垂

Tamadale

”令和のお屋根替え”
次世代へつなぐ 祈り・技・美

特集

祝 ユネスコ無形文化遺産登録

伝統建築工匠の技 檜皮採取・檜皮葺ひわだ さい しゅ ひわだ ぶき ～古より伝わる日本唯一の伝統技術～

特殊神事 手鉦始祭ちやう な はじめ さいの齋行

特別寄稿文

株式会社 村上社寺工芸社
代表取締役

村上英明／檜皮葺「千年の技・千年の美」

御本殿 木製の足場の様子



仮殿遷座祭

ご挨拶

令和三年の年明けは、厳しい寒さが続き北日本や日本海側では記録的な降雪を記録したところもありましたが、当社では二月末には河津桜、三月に入り枝垂れ桜も咲き始め桜の季節となりました。氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

さて、本年の初詣でございますが、三が日に限らず二月末日までを初詣期間とした分散参拝のご協力やご参拝時のマスク着用など、当社公式WEBサイトを始め様々な形で感染防止対策をお願いして参りました。皆様の感染症予防への意識も高く駐車場の混雑も少なく拝殿前でもソーシャルディスタンスを保ちつつご参詣いただきました。これも偏に皆様方のご理解ご協力の賜物と衷心より感謝申し上げます。当社と致しましては、当面感染対策を実施し皆様のご参拝を心よりお待ち申し上げますので、是非とも感染拡大防止にご協力の上、ご来社賜りますようお願い申し上げます。

当社で令和二年より進めております「天皇陛下御即位記念 令和のお屋根替え」の記念事業でございますが、第一期工事の真名井及び神徳殿・渡り殿のお屋根替えが昨年十月に無事完工し、現在は第二期工事であります御本殿のお屋根替えに着工しております。去る一月十八日、午後五時より仮殿遷座祭を斎行し、大神様に御本殿の隣に鎮まります並宮へお遷りいただきました。翌日より、葺き替え工事に伴う木製の足場を組み始め、古い屋根の解体作業が始まりました。今後、工事が順調に進みますと本年十一月には真新しいお屋根の御本殿をご覧いただけることと存じます。引き続き、ご支援ご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

そして、昨年はおもう一つ大変喜ばしい出来事ございました。令和二年十二月、世界の伝統文化などを保護するユネスコ無形文化遺産に我が国の「伝統建築工匠の技・木造建築物を受け継ぐための伝統技術」として建造物の装飾や彩色を始めとする十七分野の技術が登録されました。これは我が国の伝統建築技術の価値が世界的に認められたことを意味します。また、今回登録された技術の中には当社社殿のお屋根に使われています檜の皮で葺く「檜皮葺」や「檜皮採取」の技術も含まれており、ユネスコ無形文化遺産に登録された翌年が偶然にも当社御本殿のお屋根替えの年となりましたことは、大変感慨深く大神様の御神慮と申し上げるほかありません。本年夏頃には御屋根の葺き替え作業が始まりますので、その時期に併せ檜皮葺作業の見学会を予定致しております。全ての皆様とは参りませんが、先人達が大切に護り受け継いでこられました伝統技術を出来るだけ多くの皆様にご覧いただきたいと考えております。

境内に春の花々が咲き始めますと、いよいよ御例祭です。各位におかれましては、どうかご平安にて日々お過ごしになりますようお祈り申し上げます。

令和三年三月十日



節分祭の斎行

特別奉仕者 女優天玲美音さん



二月二日(火)に節分祭を斎行いたしました。

例年二月三日に斎行していましたが、暦の影響で昨年より一日早い立春を迎えました。これは明治三十年以来、一二年振りのことで大変珍しい年にあたります。

また、本年は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止を考慮し、舞殿及び特設舞台からの豆撒き行事は中止とし、神事のみ斎行いたしました。当日は、ソーシャルディスタンスを保ちながら限定四十名の年男女役の皆様にご奉仕をいただき賑々しくも厳粛の裡に神事を執り行いました。

新型コロナウイルス感染症の早期の終息をお祈り申し上げます。

節分祭の起源

初めて行われたのは、文武天皇の御代とされ、全国に疫病が蔓延したため宮中において執り行われたのが最初とされます。その後、疫病の原因と考えられた鬼(流行病や災難をもたらす邪鬼)を追い払うために宮中行事として行われるようになりました。

その後、庶民の間にも広がり、現在のような社寺で豆を撒くような形となったと考えられます。



追儼・鬼遣らい神事

福徳円満 宝槌打振神事



今年の特別奉仕者

今年の特別奉仕者は、元宝塚歌劇団宙組出身で浜松やらまいか大使やガールズ女神大使を務められています女優の天玲美音様にご奉仕をいただきました。

特集



お屋根替え工事を行う社殿▲

令和二年十二月、世界の伝統文化などを保護するユネスコの無形文化遺産に日本の「伝統建築工匠の技・木造建造物を受け継ぐための伝統技術」が登録されました。これは、日本の伝統建築技術の価値が世界的に認められたことを意味します。

今回登録された中には、伝統建築とともに工夫を重ね発展してきた「檜皮採取」や「檜皮葺」も含まれています。これら技術には、日本人が古来より大切にしてきた伝統と多くの知恵が詰まっています。

現在、当社では檜皮葺お屋根の葺き替え工事を行っています。「伝統」と「技術」そして「心」が受け継がれていく瞬間を多くの皆様にご覧いただければ幸いに存じます。

▶ヘラを使い檜皮を剥がします



▶檜皮を葺く作業

▶採取した檜皮を揃える



▶檜皮の解体作業

▶加工前の檜皮



令和二年十二月

ユネスコ無形文化遺産登録

伝統建築工匠の技 檜皮採取・檜皮葺

古より伝わる日本唯一の伝統技術



ユネスコ無形文化遺産とは

ユネスコとは国際連合教育科学文化機関の略称であり、諸国民の教育・文化・文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関です。無形文化遺産は、ユネスコが取り組む遺産事業の一つで芸能や伝統工芸技術などの形のない文化を対象としています。

皆さんご存じの「世界遺産」もユネスコの遺産事業の一つですが、こちらは富士山や姫路城といった「自然」や「建築物」などの有形物を対象にしています。

今回の登録により、世界的な認知度が飛躍的に上がるのはもちろん、日本人としての誇りを改めて持つことが出来ます。さらに保有国と国際社会には文化遺産を保護する義務や責任が生じるため、自国や世界から擁護を得られることが最大の利点となります。

伝統建築工匠の技とは、 どのようなものでしょうか

木・草・土などの自然素材を建築空間に生かす知恵、周期的な保存修理を見据えた材料の採取や再利用、建築当初の部材とやむを得ず取り替える部材との調和や一体化を実現する高度な技術で、棟梁を中心とする職種を越えた組織の下、途絶えることなく伝統を受け継ぎながら工夫を重ね発展してきた伝統的な建築技術のことをいいます。

この技術は、法隆寺をはじめとする歴史的建築遺産の保存に不可欠な技術であり、素材や材料等の特性を生かし、最低限の修理にとどめる高度な技術です。さらに、素材育成と採取のサイクルによって持続可能な技術を実現し、建築遺産の保存伝承に寄与しています。



檜皮採取



檜皮採取とは、檜皮葺きに用いるため、八十年から百年以上の檜の立ち木から樹皮である檜皮を剥ぎ取る技術です。立ち木の檜は八年〜十年ほどで樹皮が形成され、再び採取が可能となりますが、そのためには樹皮下の形成層を傷つけない技術が大切です。檜の立ち木の下部からヘラを入れ、上方にめくり上げ麻を巧みに使い足場とします。高い木では、二十メートル以上登り檜皮を剥ぎます。

檜皮の採取は樹皮の形成期間である四月〜七月までは剥ぐことができません。また、単独で山中深くまで入り高い木に登るなど危険を伴う作業であり、採取した檜皮を担いで山裾まで運ぶなど重労働も必要となります。

現在、重要文化財として保存されている檜皮葺の建造物を保存維持し、後世に伝えるためには檜皮採取の技術は欠くことのできない重要なものです。



檜の木に登り檜皮の採取▲



檜皮を束ねた「丸」を運ぶ様子▲



檜皮葺



檜皮葺とは、建造物の屋根を檜の皮を用いて葺く我が国特有の技術です。

この技術の起源は、定かではありませんが七世紀中頃には既に用いられ、中世の末にはその技法が定着したとみられます。

現在、全国で約七〇〇棟の檜皮葺の建造物が重要文化財として保護されており、これらの建造物を保護するために檜皮葺の技術は欠くことのできないものです。

一般の建築では、ほとんど用いられなくなりつつあり伝承が困難になってきていますが、公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会の活動により技術者の人数が回復傾向にあります。



横断幕の設置▲



檜皮を竹釘にて打ち込む様子▲



品軒を手斧で切り揃えます▲

檜皮葺 「千年の技・千年の美」

株式会社 村上社 寺工芸社 代表取締役 村上英明



はじめに



小國神社様が天皇陛下御即位記念「令和のお屋根替え」をされるにあたり、弊社と檜皮葺工事の契約を締結していただき、大変光栄なことと有難く感謝申し上げます。

昨年は、神徳殿等が完成し、今年の一月より御本殿の仮設工事（丸太組）を開始し、屋根を解体、軒付作業へと進捗している状況です。

この機会に檜皮葺のこと、ユネスコ無形文化遺産登録、小國神社様とのご縁等について述べさせていただきます。



檜皮葺の歴史



日本に古くから伝わる檜皮葺は、日本を代表する最高級の建造物に一三〇〇年にわたり用いられてきました。それは、造形が非常に繊細で優美な事や、柔らかな曲線美が日本の風土と相まって、日本人の心を深く捉えているからにほかなりません。先人たちの優れた

感性が磨きをかけて造りだした世界に類を見ない日本独特の芸術作品といえます。

「扶桑略記」（国史大系第六巻）の天智天皇七年（六六八）戊辰正月一七日近江国志賀郡於崇福寺建の中に、檜皮葺の記録があります。又、室町時代一五〇〇年末頃に成立したとされる、「職人尽絵」（東京国立博物館蔵）「七十一番職人歌合」に描かれた中に、最も古い檜皮職人の姿を見る事が出来ます。



ユネスコ無形文化遺産登録とその技



伝統技術である「檜皮葺」「檜皮採取」がフランスのパリで開催された、ユネスコ無形文化遺産保護条約第十五回政府間委員会で我が国より提案した「伝統建築工匠の技・木造建築を受け継ぐための伝統技術」に関する審議が行われ、十二月十七日に登録が正式に決定されました。この技は、すでに国の選定保存技術に認定がなされて

おり、さらに世界の方々にも認めていただいたこととなります。

檜皮葺について、工程順に概要を説明させていただきます。

檜山の確保

檜皮葺は、その原材料となる檜山がないことには成り立ちません。幸いなことに小國神社様はじめ近隣の神社様や個人でお持ちの山に、多くの檜山があり、その檜皮を活用させていただいております。本当に有難いことです。

檜皮採取

樹齢八〇年以上の檜の立木から外樹皮を剥ぎ取る原皮師と呼ばれる職人の技術が欠くことが出来ません。この技は、高所での仕事であり、又、高度で繊細な技術も必要とします。

外樹皮を剥ぎ取ると、十年程度経過すると再度檜皮採取が可能となり、木を切らずして何回も檜皮採取が出来る

ことになります。

檜皮整形

原皮師が剥ぎ取った皮を、檜皮整形（皮切り）といって一定の厚みや大きさに揃えていく作業を行います。この作業は地味ですが、大変重要で、屋根の出来上がりを左右するほど大切な作業です。

実測・調査

屋根を葺く前に、どの様な納まりになっっているか十分実測・調査を行います。少しずつ解体を始め、前回どの様に葺かれていたかを頭の中に叩き込んでいきます。

屋根葺

檜皮を一センチ二ミリの間隔に一枚一枚丁寧に並べ、竹釘で留めていきます。いかに美しい曲線に葺き上げるかが職人の腕の見せ所であり、うまく葺けて皆様に喜んでいただいたときは、職人冥利につきますと言えます。



自然との共生



檜皮葺は自然を生かし、その恵みをいただき屋根材として活用して葺き上げます。このように自然との共生は、欧米はじめ世界の人々から広く賞賛されており、世界遺産となった所以でもあると思います。



小國神社様とのご縁



明治十九年生まれのお祖父が、大正四年に小國神社様で檜皮葺工事をさせていただいたのがご縁の始まりです。大正十一年の正遷宮記念として賜った賜盃が残っており、祖父もさぞかし嬉しかったことと思います。

大正五年生まれのお父は、祖父の鶴の一声で屋根屋になったと聞いております。小國神社様とは、昭和二十六年神饌所、二十七年透塀、舞殿、四十六年神徳殿と工事をさせて頂きました。そして、五十二年〜五十四年にかけて御本殿・中門・幣殿・拜殿の大工事を施工させて頂いております。

今回、令和の大工事は大正・昭和に

続いて三回目となります。今回は私と息子が携わらせていただいております。四代にわたり百年以上お世話になっております。弊社の歴史は小國神社様と共に歩ませていただいていると言っても過言ではありません。心から感謝申し上げます。



結びに



檜皮葺が千年以上伝承されている意義は大変重いものがあります。技術の継承・人材の育成・資材の確保、そして社会的認知の向上を次世代に引き継いでいくには、「持てる最高の技術と誠実さを以って仕事に励む」という職人道としての自覚を高め、ユネスコ世界遺産登録を機に、更に精進を重ねていかなければならないと思っております。末筆乍ら、小國神社様の益々の御隆盛、打田宮司様はじめ皆様のご清栄を心よりお祈り申し上げます。

プロフィール

株式会社 村上社寺工芸社
代表取締役
村上英明



昭和30年12月 兵庫県丹波市山南町篠場に生まれる
昭和49年 3月 柏原高校卒業
昭和53年 3月 日本体育大学卒業
昭和58年 4月 5年間の教員生活を経て
(株)村上社寺工芸社入社父に師事する
平成10年 3月 代表取締役就任
平成26年 5月 (公社)全国社寺等屋根工事技術保存会
会長に就任
令和 2年 6月 (公社)全国社寺等屋根工事技術保存会
監事に就任

現在に至る

特殊神事

手鉦始祭の斎行

ちような はじめ

一月十一日(月)午前八時より、
当社の特殊神事であります手鉦
始祭を斎行いたしました。

宮司祝詞奏上後、神前に置か
れました角材を前に大工四名に
て厳粛に神事を執り行いました。

手鉦始祭は、
どのようなお祭りでしょうか

古来より、大工の仕事始めのお祭り
とされ、建築や土木工事の安全をお祈
りする祭典です。

神事では、宮大工が檜の角材を使用
し建物の柱などを作る工程、ホゾ穴の
寸法をとり墨付けをして裁断から仕上
げまでを行う昔ながらの方法をご神前
で模擬的に行うことで一年間の作業安
全を祈願しています。



祝詞奏上



墨付

木口を鋸で切る様子

鉋をかける様子

手鉦で削る所作

神事で使う道具

神事には、大工道具である手鉦(ちような)・鋸(のこぎり)・曲尺(かねじゃく)・墨壺(すみつぼ)・鉋(かんな)を使用します。

また、長さ四、五メートルの檜の角材を使いますが、この木は当社境内で採りましたものを毎年使用します。



墨壺(すみつぼ) ▲



手鉦(ちような) ▲



ご奉仕する大工の皆様

神事の奉仕者

手鉦始の神事は、古くから行われていたとされ「延宝の記録」には「同十一日 御倉開 鉦始有り、宮大工上リテ勤之、其作法有り」とあり代々宮大工が奉仕することが決まっていたとされます。

今年の奉仕者は、山喜建築山本喜規(棟梁)・向山翔・金子将太・中野二郎の四名にお務めいただきました。

神事は、 どのように行うのでしょうか

奉仕者は、棟梁・寸法取り・墨付けの四名にて行います。

棟梁は、烏帽子に直垂の装束で他の三名は白丁姿で行います。

まず、木口の裁断を行います。寸法取りが神前に向かって左の木口から一・五cmの寸法を取り三回墨付けをします。次に四十五cmずつ寸法を取りな

がら中央を決めて印を付けます。

同様に右の木口から寸法を取り墨付けします。墨付けが終わると、それぞれ三回ずつノコギリで切る所作をします。

次に、墨付け役二人が寸法を取ります。まず、縦の墨付けをします。寸法取りが印をした中心に三回墨付けをし、その中心線から右左の順に三・六cmずつ寸法を取り三回墨付けをします。さらに、中心線から左右に約三十六cmの寸法を取り、同様にしてその線の左右に三・六cmの墨付けをします。縦の墨付けが終わりますと、次に横の墨付けを行います。カルコを持つ者と墨壺を持つ者とが左右に分かれ、木口の中を計って中心線を決めてから親指と人差し指で糸を持ち腕を伸ばして三回墨打ちをします。次に右左に三・六cmの寸法を取り、それぞれ三回ずつ墨打ちをします。

次に棟梁が、右・中央・左の順に三回ずつ鉋（かんな）をかけます。

次に棟梁が手鉞を持ち、手鉞の柄を三回撫でた後「ヤーア」と掛け声をかけて右・中央・左の順に三回ずつ削る所作をします。

最後に棟梁が古式神酒を奉り神事は終了となります。

以上が現在行われている手鉞始の神事です。

物部神社との共通点

当社以外にも手鉞始祭を斎行している神社は何社かありますが、その一つに物部神社があります。

島根県に鎮座する石見国一宮です。ご祭神は宇摩志麻治命（うましまじのみこと）です。「物部大明神社伝」によりますと物部大明神・宇摩志麻治命は神武天皇の大和入りの際にお力を発揮され、功を奏したことにより石見の国を賜りました。その際、物部大明神は白い鶴に乗って天降られたとされます。その山を鶴降山（つるぶさん）といい、その山の麓に宮居を築かれました。これが物部神社と伝わっています。

当社の創始も、欽明天皇の御代十六年二月十八日に本宮山に小國の神が降臨され、後に山麓約六キロの現在地に社殿を造営したと伝わります。実に酷似している伝承です。

また、宇摩志麻治命は物部氏の御祖神であり出雲国の開拓神と伝わります。古い書物によりますと、物部氏の一族が遠江国の開拓に関与したとされ、遠江国造と出雲国造は同祖

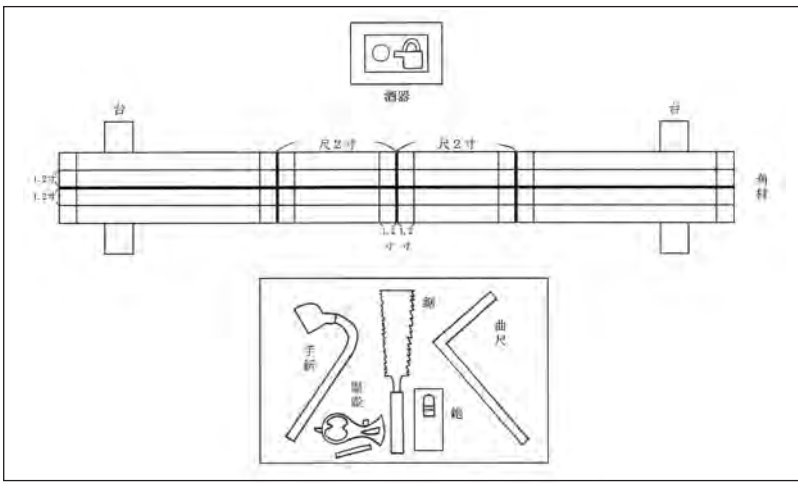
であったと考えられます。

さらに、当社と物部神社には共通するものがあります。手鉞始祭を始め、奉射神事・御弓始祭、稲祭、鎮火祭などの祭祀、そして古式神酒の醸造が上げられます。物部神社の手鉞始祭は一月七日に「斧始式」として行われています。重役・添役の二名が長さ一間の杉の角材に墨打ちし、鉞で削る所作をします。このような手鉞始の神事を行う神社は全国的にも、珍しく貴重な神事です。

また、古式神酒は祭典には欠かせない神饌の一つで、その年に収穫された米にて醸造し神前にお供えされます。こうした共通性が見られるということは、当社の創祀に物部氏が深く関わっていると考えられます。



▲お供えする古式神酒



神々とお祭り

私たちの祖先は、かみまろ神祭りのなかから
生き方を学び信仰の礎としてきました。

また、古くからの伝承や歴史をふまえ、
豊かに暮らす知恵を生活のなかに生かし、
神々と生活をともにしてきました。

毎年同じ時期にお祭りが

繰り返し行なわれ、

私たちはその中で信仰や

文化をかたちづくってきました。

「お祭り」とは、

日本の伝統にもとづいて、

神々に対する祖先のこころを

今に伝える大切なかたちです。



令和三年四月十八日 例祭の齋行

例祭期間のご案内

本年の例祭は、四月十五日(木)に末社塩井神社の垢離祭(身を清めるための塩水を汲むお祭り)を齋行いたします。

十七日(土)午前十時から献詠祭、午前十一時からは前日祭を齋行し、午後二時からは氏子入り奉告祭を執り行います。また同時刻より国の重要無形民俗文化財に指定されています、古式十二段舞楽(試奏)の奉奏があります。

翌日、十八日(日)午前十時から例祭が齋行され、午前十一時から古式十二段舞楽の奉奏があります。

午後二時から神幸祭(神輿渡御)が行われますが、大宝元年(七〇一)の勅使参向の様子を再現した時代絵巻のような勅使行列が参道を華やかに彩ります。

氏子崇敬者の皆様におかれましては、年に一度のこの期間に是非とも、ご家族お揃いでご参拝下さいますようご案内申し上げます。



令和2年 例祭(規模を縮小して齋行) ▲

献詠祭和歌募集について

当社では例祭に先立ち、ご神前に奉納する和歌を募集しています。
応募いただきました和歌は祭典終了後、舞殿横掲示板にてご披露させていただきます。

明治天皇御製

御題 花

たかどのの
窓てふ窓を
あけさせて
四方の桜の
さかりをぞみる

口語訳

高殿の窓という窓を全部開け放たせて、四方の桜のさかりを心ゆくまで眺める、この清々しい楽しさよ。
(明治四十五年)

● 募集要項 ●

- 兼題 「コロナ」「絆」
- 用紙 短冊
(歌は楷書にてお書きください。裏面に住所・お名前を明記ください。)
- 締切り 4月10日(土)
- お申込宛先・問合せ先
〒437-0226
静岡県周智郡森町一宮3956-1
「小國神社祭儀課献詠係」
TEL (0538) 89-7302

社頭動静

師走の大祓式・除夜祭の斎行

令和二年十二月三十一日(木)に師走の大祓式を斎行いたしました。

大祓は、私たち日本人の伝統的な考え方に基づくもので、常に清らかな気持ちで日々の生活を送ることができるよう、災厄の原因となる諸々の罪や過ち、心身の穢れを祓い清めます。当日は、約四五〇名の皆さまが参列され、引続き除夜祭を斎行いたしました。本年は感染症防止対策のため除夜祭へのご参列はご遠慮いただきましたが、大御様のご加護のもと皆様が一年を無事に過ごせたことに感謝し、新しい気持ちで、新年を迎えることができるようお祈りいたしました。



▲師走大祓式

田遊祭・田遊び神事の斎行

一月三日(日)午後一時より、旧社家の皆様のご奉仕による国選択の記録すべき無形民俗文化財である田遊祭・田遊び神事を斎行いたしました。

「田遊び神事」とは、年の始めに豊作を祈願し『田作り』から『刈り入れ』までの稲作過程を模倣的に演じ、田の神を活気づけて秋の豊かな稔りをお祈りする神事芸能です。

当社の田遊び神事の大きな特徴は、実に朴訥(へちま)として芸能的色彩は薄く、唱え言葉を中心とした古い形を保ったまま今日まで傳承されてきた点です。



▲距離を保ちつつ初詣



▲田遊び神事 9番 苗賛め



▲点火後の様子

どんど焼祭の斎行

一月十七日(日)午前八時三十分よりどんど焼祭を斎行いたしました。

古来より、小正月に行われる火祭りのことを「どんど焼」と呼びますが、一年間の災いを祓い、五穀豊穡や無病息災・子孫繁栄などを願い毎年行っています。

当社では、事待池の横に正月期間のみ臨時の古神札納め所を設置しています。その古い神札などが山積みになった納め所の前を祭場とし爆竹焼納祭(どんど焼祭)を行いました。

祭典に引き続き、宮司が大麻で沢山の焼納物をお祓いし、忌火を灯すと勢い良く燃え上がりました。

御弓始祭の斎行

一月十七日(日)に御弓始祭を斎行いたしました。

殿内にて祭典を執り行い引き続き舞殿東側の内庭にて、県内の弓道愛好家らが所属する大弓会のご奉仕により御弓始神事を厳かに執り行いました。

日置流の作法により行われる大的式は、一挙手一投足が非常に細やかで、美しい作法となります。

地射手が十五間(約二十八メートル)先的の矢を放つと、鋭い風音が響き、斎場からは歓声があがりました。

この神事は、年占いや五穀豊穡を祈願し行うところが多いのですが、当社では、「疫神鎮送」の意味を持つとも云われています。



▲御弓始神事の様子



厄除大祭特別祈禱の様子▲



飯王子社例祭齋行▲



仮遷座の儀▲

仮 殿遷座祭の齋行

当社では天皇陛下御即位を記念した事業としてご本殿以下社殿群のお屋根替えを実施しております。現在は、御本殿檜皮葺き屋根の葺き替へ工事（第二期工事）に着手していますが、昭和五十二年以来、約四十年振りの工事となります。

一月十八日(月)午後五時より、大神様を隣の社殿「並宮」へお遷しする仮殿遷座祭を齋行いたしました。

当日は、責任役員の皆様を始め、村上社寺工芸社様や報道関係者が見守る中厳粛の裡に齋行されました。

天 長祭の齋行

二月二十三日(火)午前九時より天長祭を齋行し、今上陛下のご誕生をお祝い申し上げますと共に、ご皇室の弥栄と国の隆昌をお祈り申し上げます。

天長祭とは、天皇陛下のご誕生を祝い聖寿の長久を祈るお祭りです。天長とは、天地と共に聖寿（陛下の寿命）の限りなきことを言祝ぐ（お祝いする）という意味です。

当日は、宮中でも天長祭が行われ天皇陛下御自ら宮内庁の職員を率いられ宮中三殿である賢所（かしこどころ）・皇霊殿（こうれいでん）・神殿（しんでん）をご親拝遊ばされます。

鉄 製千支作品のご奉納

鈴木格子様より、本年の千支にちなんだ「辛丑年」の鉄製千支作品をご奉納いただきました。

本年の作品は、見た目の可愛さにこだわり、色合いや顔の大きさを工夫された愛らしい表情の親子のウシです。

鈴木様は、仕事の合間を縫って廃材を利用した鉄製の工芸品作りや様々なアート作品の製作に取り組んでいるそうです。

当社には平成二十一年の丑年から毎年ご奉納され本年で十二年目（一回り）を迎えられました。

鈴木様の作品は、縁起の良いフォトスポットとして毎年多くのご参拝の皆様が撮影を楽しんでいます。鈴木様のご厚志に心より感謝申し上げます。

(有) 一十園様による枝垂れ梅の鉢植えの設置

第一鳥居をくぐり、参道を進んだ太鼓橋の右側に巨大な枝垂れ梅の鉢植えを設置いたしました。

これは、当社の崇敬者であります(有)一十園の小林健様のご厚意によりご提供いただいたものです。

直径一六〇cmの巨大な鉢植えに樹齢五十年以上の白梅の木が植わっている様子は、中々見ることが出来なものです。

ご参拝の皆様は、梅の花の咲く姿や香りを楽しむのはもちろん、春の訪れを感じる白梅の姿を背景に写真撮影される方も多く見受けられました。

小林様のご厚志に心より感謝申し上げます。

枝垂れ梅の設置▼



森町茶商組合様より奉賛金の奉納▼



鉄製千支作品「うし」の奉納▼



これからの 行事

7月



宮川の新緑



端午祭



5月5日午前11時より斎行いたします。

菖蒲の節句とも言われ、お子様の健やかな成長を祈るお祭りです。祭典後は邪気を祓う菖蒲とよもぎの葉を授与いたします。



月次祭

毎月1日と18日の10時から執り行います。

月次祭では、神様に日々の感謝を捧げ、国家国民の安泰と繁栄を祈ります。ご参列はどなたでも可能です。当日、社務所受付でお申し出ください。



4月3日(土)・5月1日(土)・6月5日(土)
7月3日(土)の日の出より午後3時頃まで
小國神社第5駐車場で開催!!

大骨董蚤の市のご案内!! ～隠れた銘品を探して…～

早朝から、多くの店舗が軒を連ねます。陶器や古着、アンティーク品など多種多様な骨董品が出品されます。

貴重な銘品も隠れていそうです。お店を覗きながら、骨董商との会話を楽しんでみてはいかがでしょうか。

6月

みなづき 水無月

- | | | |
|-----|-----------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 1日 | 花菖蒲園開園奉告祭 | (午前10時) |
| 5日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 6日 | 花しょうぶまつり | (午前10時30分) |
| 18日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 21日 | 御田植祭 | (午前10時) |
| 30日 | 夏越の大祓式 | (午後 3時) |

7月

ふみづき 文月

- | | | |
|-----|--------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 3日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 15日 | 甲子祭 | (午前10時) |
| 18日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 31日 | 愛宕神社例祭 | (午前10時) |

小國神社の祭典・

4月～

令和3年6月30日(水)午後3時より

夏越大祓式

半年に一度、日常生活の中で犯した罪や過ち、心身の穢れを人形に託して川や海に流し、祓い清める神事です。

引続き茅の輪くぐり神事を行い、無病息災を祈ります。どなたでもご参列ができます。

半年の罪穢れを祓い、身も心も清々しい気持ちで新たな季節をお迎え下さい。

小國神社 おおはらえのことば

検索

スペシャルムービー～古の祝詞 大祓詞への誘い～

4月

卯月

- | | | |
|-----|-------------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 3日 | 神武天皇祭遙拝式 | (午前10時) |
| 3日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |
| 3日 | 勸学祭 | (午前11時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 8日 | 杉祭 | (午前10時) |
| 8日 | 全国一宮等合殿社例祭 | (午前10時30分) |
| 15日 | 献茶祭(茶商組合) | (午前 9時30分) |
| 15日 | 垢籬祭 | (午前11時) |
| 15日 | 舞揃 | (午後 2時) |
| 17日 | 献詠祭 | (午前10時) |
| 17日 | 前日祭 | (午前11時) |
| 17日 | 十二段舞楽奉奏 | (午後 2時) |
| 17日 | 氏子入り奉告祭 | (午後 2時) |
| 18日 | 例祭 | (午前10時) |
| 18日 | 十二段舞楽奉奏 | (午前10時50分) |
| 18日 | 神幸祭 | (午後 2時) |
| 18日 | 献茶祭(手揉み保存会) | (午後 4時) |
| 29日 | 昭和祭 | (午前10時) |

5月

皐月

- | | | |
|-----|-----------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 1日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |
| 5日 | 端午祭 | (午前10時) |
| 6日 | 本宮山青葉祭 | (午前11時) |
| 16日 | 甲子祭 | (午前10時) |
| 18日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 23日 | 宮代神饌田御田植祭 | (午前11時) |



宮代神饌田御田植祭

5月23日午前11時より斎行いたします。

毎朝の日供祭を始め1年間の祭典でお供えする、神饌米を作るためのお田植祭です。



本宮山青葉祭

5月6日午前11時より斎行いたします。

本宮山の新緑が鮮やかな美しい季節です。どなたでもご参列ができます。是非、ご登拝され大神様のご加護をお受けください。





天皇陛下 御即位記念

令和の お屋根替え

次世代へ繋ぐ 祈り・技・美



ご奉賛のお願い

小國神社では、令和の御代替わりをお祝いし、天皇陛下御即位記念『令和のお屋根替え』〜次世代へつなぐ祈り・技・美〜を、四年の歳月をかけ、御本殿以下社殿群のお屋根の葺き替え工事をおこないます。

当社の御本殿以下社殿のお屋根は、日本唯一の伝統技法「檜皮葺」（檜の皮で屋根を葺く技法）で葺かれた屋根です。古来より、その造形の柔らかな曲線と風合いに代表される繊細な優美さは、日本の風土と調和してきました。古典文学「枕草子」には、『雪は檜皮葺、いとめでたし。すこし消えがたになりたるほど。』と綴られ、白雪と檜皮の屋根が織りなす色の絶妙なコントラストが風情豊かに表現されています。

また、定期的な葺き替えが必要であることが示すように、材そのものの美しさを喜び讃え、清らかな状態を大切にしてきた私たちの祖先が造りだした「日本の美」であり、古より変わることのない神様への「祈り」が、その「技」と「美」を護り伝えてきました。

しかしながら、現在、御本殿以下社殿のお屋根は、古いものでは六十余年、新しいものでも四十余年の月日が経過しております。檜皮を使ったお屋根はたびたび補修を施して参りましたが、耐用年数を考慮するとき、葺き替え工事に着手するべきと判断致しました。

つきましては、ご祭神、大己貴命が鎮まる御本殿をはじめ社殿の常若（いつまでも若々しくあること）に努め、先人が護り伝えてきた、「祈りの精神文化」と貴重な「伝統技術」を次世代につなぎ、より一層神さまのご加護を戴けますよう、本事業を進めて参りたく存じます。

世情厳しい折かと存じますが何卒、趣旨をご理解いただき、ご支援、ご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

遠江国一宮 小國神社
小國神社崇敬奉賛会
天皇陛下御即位記念事業「令和のお屋根替え」
募財委員会委員長 龜山 銀男
宮司 打田 文博
会長 鈴木 覺

募財期間：令和元年 8月 1日から
令和 5年10月30日まで
総予算：3億5,000万円

工期日程

- 第1期工事 令和2年1月14日～ 3月31日：真名井(完工)
令和2年2月12日～10月20日：神徳殿・渡り殿(完工)
- 第2期工事 令和3年1月19日～10月30日：御本殿(着工)
令和4年2月12日～ 5月30日：並宮
- 第3期工事 令和4年4月20日～12月10日：拝殿
令和5年2月12日～10月30日：中門、幣殿

お屋根替えにともなう主な文化事業 (葺き替え工事現場見学会)

屋根葺き替え作業の様子を一般公開いたします。
日程、お申し込み方法は、改めてお知らせいたします。

ご寄付に関する詳しいお問い合わせは、
小國神社崇敬奉賛会事務局までお願いいたします。

○お問い合わせ先：小國神社崇敬奉賛会事務局
〒437-0226 静岡県森町一宮3956-1
電話：0538-89-7302

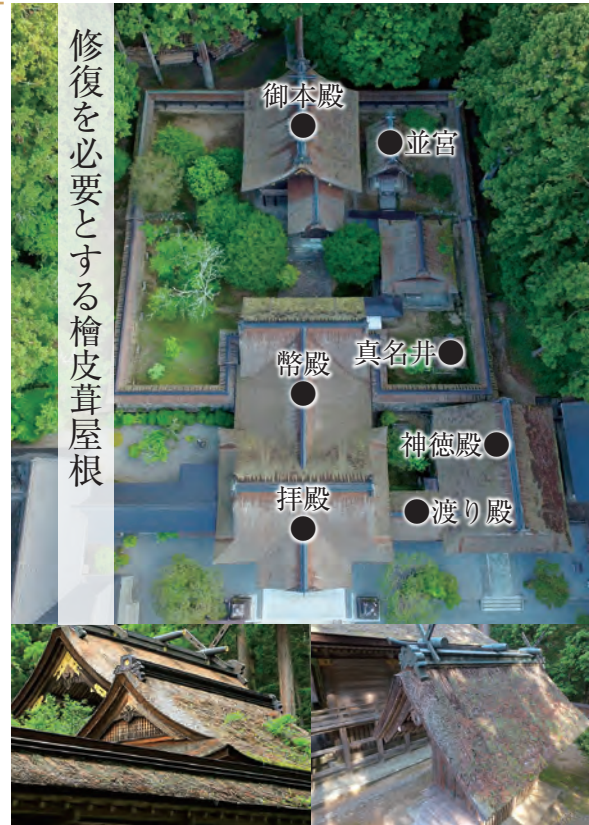
Email oyanegae@okunijinja.or.jp
「令和のお屋根替え」～次世代へつなぐ 祈り・技・美～
公式WEBサイト okunijinja.or.jp/oyanegae/



奉賛金について
社務所にてお申し込みができます。
(その他の方法をご希望の方は事務局までお問い合わせ下さい)

▶永い年月に亘って雨風に晒された屋根は、損傷や経年劣化、植物の侵食などが確認できます。

修復を必要とする檜皮葺屋根





令和のお屋根替え

檜皮葺

一三〇〇年にわたって継承される、優雅な造形美と日本の風土に適応した「用と美」の伝統技法

小國神社のお屋根は、日本古来の伝統技法「檜皮葺」（檜の皮で屋根を葺く技法）で葺かれた屋根です。

飛鳥時代に広まり、奈良時代では上級建築に用いられ、平安時代には最も格式の高い屋根工法となり、神社建築などに用いられました。

樹齢百年以上の檜を伐採することなく皮だけを取り、職人の手によって仕上げられる檜皮葺屋根は、三十年以上の雨風から御社をまもる機能性と繊細で美しい曲線美を兼ね揃えた、国外には例を見ない日本特有の文化資産としても認知されています。



創業当時の記録

株式会社 村上社寺工芸社

大正4年創業。兵庫県丹波市で100余年の歴史をもつ。日本古来の技法で、国の選定保存技術に指定されている檜皮葺・柿葺の職人技術をもち、国内の国宝・重要文化財等社寺仏閣の屋根を葺く。創業年に「遠江国一宮 小國神社 檜皮葺屋根の葺替え」を施工した記録が残る。



職人紹介

進捗状況

現在、御本殿のお屋根替えに着手しています。
(令和三年三月現在)



▲ご本殿 木製の足場



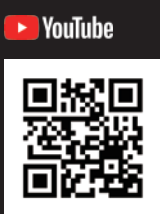
▲ご本殿の千木を取りはずす様子



▲ご本殿の傷んだ屋根の様子



檜皮を整える村上社寺工芸社の職人達



綴皮工程の動画がご覧頂けます。

職人の技【片手で竹釘を打つ】



20~30 本程の竹釘を口に含み、舌を使って一本ずつ口から釘を出します。金槌を握る手で釘を掴み、屋根金槌の「伏金」と呼ばれる部分で檜皮に差込み、金槌で打ち込みます。金槌の格子状の溝により竹釘の頭が潰れ、抜けない形状で完全に打ち込まれます。



片手釘打の動画がご覧頂けます。

天皇陛下御即位記念

令和のお屋根替え

次世代へつなぐ祈り・技・美

『ご奉賛の皆さま』

お陰をもちまして、多くの皆さまに天皇陛下御即位記念「令和のお屋根替え」の趣旨をご理解頂き、ご支援、ご奉賛を賜りますこと篤く御礼申し上げます。ご奉納頂いたご浄財は造営資金として大切に活用させていただきます。

職員一同、更なるご神徳の発揚に努めて参りますので、今後も変わらないご崇敬を賜りますれば幸いです。

ここに、ご芳名を掲載し改めまして重ねて御礼を申し上げます。

●壹百萬円以上

- 焼津神社宮司 鈴木 啓央
- 株式会社 丸俣 代表取締役 小倉豊寿
- 株式会社 村上社寺工芸社

●五拾萬円以上

- 太田茶店 有限会社
- 森町茶商組合 株式会社
- 大野檜皮工業

●貳拾萬円以上

- 川合 高弘
- 北島 恵介

●壹拾萬円以上

- 飯田 孝
- 中村徹太郎
- 市川 寿

●五萬円以上

- 柴本 智彦 (有)エムケイデンキ
- 池田 清華
- 遠藤かほる
- 鈴木 久
- 鈴木 健一
- 安間 良一
- 野田 長世
- 村松 帝
- 村松 孝
- 畑山 正弘
- 王 進
- 磯山ゆきみ
- 大庭 隆之
- 西端 友基
- 古牧 十策
- サステン株式会社
- 友田 裕人
- 焼津神社宮司
- 鈴木 啓央
- 鈴木 仲宜
- 大城 元春
- 大城 元春
- 古牧 十策
- 西端 友基
- 大庭 隆之
- 畑山 正弘
- 村松 孝
- 村松 帝
- 野田 長世
- 安間 良一
- 世良 昌
- 小野田 操
- 山下 高二
- 山下 三男
- 田中 登
- 森 景美
- 長嶋 祐宜
- アートフォース
- M&K
- 亀岡 光則
- 森下 安子
- 佐野 祐子
- 佐野 克浩
- 高柳 一海

●壹萬円以上

- 合資会社 ヤマ六燃料商会
- 鈴木 眞美
- 小野 玲子
- 永田 英子
- 沓掛 光男
- 高柳 一海
- 鈴木 眞美
- 森 景美
- 長嶋 祐宜
- アートフォース
- M&K
- 亀岡 光則
- 森下 安子
- 佐野 祐子
- 佐野 克浩

●金一封

- 澤田 洋充
- 石塚 真人
- 石塚 恵美子
- 青嶋 晴美
- 木下 哲久
- 足立 征治
- 高山 國臣
- 天野友紀子
- 越前九頭龍の舞
- 小林 謙一
- 伊藤 光男
- 浜一設備工業
- 太田 勝重
- 河合 義和
- 鈴木 由典
- 瀧口 優
- 岩田久美子
- 牧野 廣司
- 吉田建材
- 吉田 清人
- 夏目 重徳
- 大原 正裕
- 田尻 真
- 松本 博
- 道清 久敏
- 畑中 豊司
- 山田 友弘
- 松本 恵
- 鈴木 圭三
- 竹山まこと
- 杉山 倫子
- 加藤 典昭
- 赤尾雅楽会
- 石川里恵子
- 村松佳穂里
- 佐原善一郎
- 佐原 元恵
- テイラー 栄
- 高柳 智弘
- 永田 真也
- 堀内 栄吾
- 磯部 竜佑
- 加藤 研
- 山崎 純代

- 神田 一美
- 石田 一哉
- 坪井 秀聡
- 望月 裕木
- 内田 啓
- 松山公以智
- 鈴木 弘
- 岡本 幸子
- 山本 敏子
- 山本 愛子
- 西原 茂樹
- 西原 和美
- 米田 悟
- 大多和義勝
- 尾田 直人
- 酒井 茂
- 久江 久江
- 平野 眞吾
- 土屋 昌代
- 福澤 倫世
- 天野 眞弓
- 水落 恵子
- 水落 努
- 神田 一美
- 野口 晃弘
- 近江比加里
- 坂本 宏信
- 小島 智聡
- 小林久理眞
- 小林眞理子
- 林 美澄
- 牧野 侑生
- 小林 範雄
- 織田 泰子
- 櫻井 洋明
- 太田 朱美
- 野口 晃弘
- 近江比加里
- 坂本 宏信
- 小島 智聡
- 小林久理眞
- 小林眞理子
- 林 美澄
- 牧野 侑生
- 小林 範雄
- 織田 泰子
- 櫻井 洋明

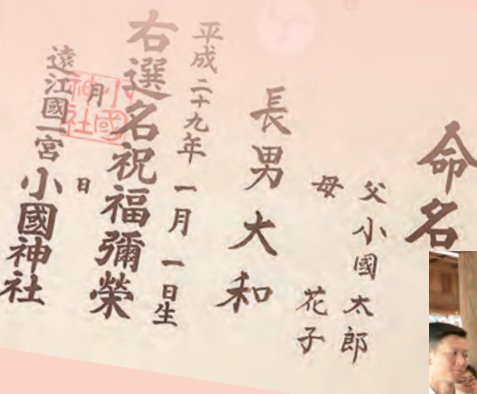


新生児選名・命名について

生を受け、生を伝える 「人の一生」

様々な節目を迎えるとき、神さまへ「感謝」と「ご奉告」を行うことは、古来より受け継がれた日本の文化です。

当社では、日本の伝統文化に則した新生児にふさわしい名前を選名いたします。また、ご家族で考えられたお名前候補の中からご相談の上、選名いたします。お名前が決定の後、お子様の無事成長と一生の幸せをご神前でお祈りし、お神札、朱印を押印した命名書を授与しております。



当社で命名奉告をされた皆様 ▶

命名

令和二年十二月一日(火)
令和三年二月二十八日(日)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 土居 美月 千葉県 | 内藤帆乃香 磐田市 | 野田 翔馬 掛川市 |
| 永田 亘 富士市 | 武藏島琉生 森町 | 柴田菜々華 袋井市 |
| 奈須田大晴 浜松市 | 原野 琴 掛川市 | 戸倉 隆晴 掛川市 |
| 岩本祥太郎 浜松市 | 落合 奏翔 磐田市 | 鬼村 拓実 浜松市 |
| 足立 煌征 浜松市 | 福森 康生 浜松市 | 青木 柑太 掛川市 |
| 天野来乃葉 森町 | 柴田 大雅 森町 | 濱田 心暖 袋井市 |
| 三浦 柊弥 袋井市 | 鈴木日真莉 袋井市 | 久保山芽依 森町 |
| 松井 美緒 袋井市 | 品川 怜那 菊川市 | |
| 大草 碧杜 掛川市 | 岩元 魁杜 掛川市 | |

お申し込み方法など詳しくは、小國神社 選名・命名奉告で検索

神社を知れば日本がわかる “まつりの国、日本”



イラスト：
小國神社ものがたり
作：たたら なおき

●手水舎のお話●

鳥居をくぐり神域に入ると参道の脇に手水舎があります。ここで手と口を清めますが、これは禊を簡略化したものです。

古事記には、伊邪那岐命が死者の国である黄泉の国から帰って来られた時に身に着けているものを脱ぎ、水に浸かって禊祓をしたことが書かれています。これが、身についた穢れを落とした禊の起源です。

古い神社の多くは清流の近くにありますが。この清流は参拝する人が禊をして身を清める場所であったと考えられます。和歌山県の熊野本宮大社は昔、川に挟まれた中州にあり川に浸からないと行けない場所でした。

こうした川や海での禊が、いつ手水鉢で行うものに変わっていったのかは正確にはわかりませんが鎌倉時代以降に普及していったとされます。

次に手水舎の水を使って身を清める作法を説明します。まず右手で柄杓を取り、水を汲んで左手にかけ左手を清めます。次に柄杓を左手に持ち替えて同じように右手を清めます。再び柄杓を右手に持ち替えて、左手の手のひらに水を受けて口をすすぎます。口をすすぎ終えたら、もう一度、左手を水で流します。その後、柄杓置きに柄杓を伏せて起きます。口をすすぐ時は、直接柄杓に口をつけて水を含まないように注意しましょう。

稚児行列 お稚児さんの募集

四月十八日(日)午後二時から斎行する神幸祭(神輿渡御)にあわせ稚児行列を行ないます。古くから、稚児は神さまに近い清浄な存在として、多くの神事において重要な役割を果たしてきました。

鮮やかな衣装を身に纏い、お子さまの健やかなるご成長に感謝し、一生の記念に残るお稚児さんの奉仕をされてはいかがでしょう。

● 募集要項 ●

- ◆ 対象者 小学校三年生までの男女
 - ◆ 初穂料(参加費) 五、〇〇〇円也
 - ◆ 締切り 四月四日(日)
 - ◆ お申込み問合せ先 〇五三八一八九七三〇二
- 『小國神社振興会
稚児行列係』



新型コロナウイルス感染症への取り組み

当社では、毎朝の日供祭に合わせ新型コロナウイルス感染症鎮静祈願の祝詞を奏上し、1日も早く事態が鎮静化するように大神様にお祈りするとともに感染拡大防止のため、以下の対策を実施しております。ご不便をお掛けいたしますが、皆様のご理解ご協力の程をお願い申し上げます。

境内について

- ご参拝につきましては通常通り参拝ができますが、マスクの着用をお願いいたします。
- 参道横の手水舎は柄杓を撤去し、流水にてお清めいただいております。
- 拜殿前賽銭箱の鈴緒は撤去させていただきます。
- ソーシャルディスタンスにご協力ください。
- 各所に消毒液を設置しておりますので、ご利用ください。

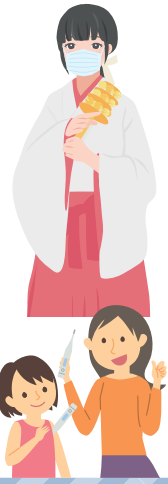


お礼お守りの授与・ご朱印受付について

- 午前9時～午後4時まで、通常通り行っています。
- 窓口には、飛沫感染防止の亚克力板を設置しています。

ご祈禱について

- 受付時間は、午前9時～午後4時まで通常通りご奉仕しています。
- 昇殿人数の制限を行っております。※昇殿とは、ご祈禱のため拜殿に入ることです。1家族あたり4名までとさせていただきます(未就学児除、但し席は4席です)。
- 受付には、飛沫感染防止の亚克力板を設置しています。
- 拜殿内及び祈禱者控室内は、除菌噴霧を行い室内換気も行っています。
- ご祈禱中は、マスクの着用をお願いいたします。(未就学児除)
- 玉串による拝礼は、ご遠慮いただいております。



神社職員の対応

- 職員は入社前の検温を実施し、手洗いうがいを徹底しています。
- 社務所内に消毒液を設置し、定期的に消毒をしています。
- 全職員マスク着用にて社務を実施しています。

その他

- 発熱や倦怠感、風邪の症状のなどをお感じの方は、症状が改善されるまでご参拝をご遠慮いただきますようお願い申し上げます。

編集後記



玉垂六十一号をお届けいたします。

今年、東日本大震災の発生より十年目の年を迎えましたが、全国で行ったNHKの世論調査によりますます国民の約三割の皆様が津波による被災地の復興が進んでいないと感じている結果となりました。十年が経過する現在に至っても依然として復興を実感出来ない皆様がいる状況です。復興が進んでいないと答えた皆様のご意見を慎重に検証し、元の生活に戻るのではなく被災者の新しい生活や日常を取り戻すために何が必要か改めて考え支援していくことが必要だと思えます。

開幕が直前に迫ってきました東京オリンピックですが、競技に参加する選手はもちろんボランティアスタッフや観戦する皆様の健康と安全は最優先です。世界に誇ることが出来る素晴らしいオリンピックが開催されますよう心よりお祈りいたします。



イラスト…
小國神社神明通り縁結び公式キャラクター
「こちんちん」(左)、「こちんちん姫」(右)